



國意考系稿

特別  
□10  
3476  
2



口10  
3476  
2



四〇三 子の手をすゝる

。世の事を知る

或人の言、子やのちいさき事をんとい  
 一は一世の中を治るとす、かゝる四の通  
 をこゝとふを、おのれを笑てこゝろに治り  
 又その人、あひきり、万の事をいふ、  
 やまよ、こゝろに笑ていせ、いふ、  
 ちあといふ、おのれを、その、  
 唐四の儒と

辨毒  
天地の心をさひ  
とちひさ

やん人の事うそ、天地の心をさひていとちひ  
さく人の他まるふこそあれとつふよ、いとちひ  
きていくよは大道をちひさしとつふよとよ  
おのれつとく、さし、そのう、圃の儒う、世  
の中の流つとや、あや、あ、急、とつと、  
堯舜、若殿周をとりて、うふ、おのれ、よ  
その、ちよ、あき、や、うふ、あ、又、問、れ、う  
圃のほれ、世、つく、そ、ち、う、堯、より、今

おのれつとくそのあ  
圃の傷中

また幾ち、うそ、又、向、さ、は、あ、そ、う、堯、より  
周、ま、の、さ、ぬ、あ、う、その、ち、よ、あ、う、う、り、ん、や  
う、百、ず、の、い、と、む、う、よ、こ、そ、そ、り、れ、み、よ、く  
世の中の事、さ、り、と、り、う、ま、い、る、事、の、  
う、そ、い、う、急、あ、と、見、あ、り、を、と、し、と、い、び、ん、い  
ど、ち、ち、ち、ち、て、その、む、う、の、世、の、事、  
う、く、と、さ、く、お、の、れ、つ、と、く、あ、川、う、う、く、あ、れ  
堯、舜、の、い、や、う、け、あ、る、よ、ち、う、け、う、と、天

おのれつとくそのあ

く不のふめあふとくはま中あれとこはす  
りつ國をそしりきい物とふ物もそ  
ふきふとふらしてふかかにせつきつと  
あふりのかして世をうたひ君をうらま  
ふはふあはふそあきい物とふよ  
まふとれはひあきふとふ事の出るそ  
う又孟子とくはひん人を堯舜のふ  
家をあはして封をくしとくは是をかひ

又孟子とくはひん人

子舜の父はめくつりのとくはふ子の子をふ  
ふは堯のふはこ堯のふは舜の父あれどこ  
はくそ封をくし人あはん舜の後を馬とく  
ふは人のふは人そ遠き國はあはつと  
はこは舜のふはそはの父あはふま封  
くはき人あはすははは孟子も今の代子  
ふは館はの口はまのこは又殷の世は  
はくはつまはははの始ははは人そ

爲の世を也つるとしつるまゝにまのつま  
 ちしよまき人ははくまうんまよ天の下は  
 小のあまぢ討と中人ふよち人の出つと  
 うさうすきもつる一う上つたよ一代ニ  
 代もやそれも討まのちりさして周の  
 文王と中人一うをとりちるよまう世は  
 一のよまをひとあへりれ討ち王のこま  
 ようして中くまうまて人をあつたあせし

周の文王とやんいひ  
 かしを

一すり事と文王の時よりちをちを討ま  
 軍と中人と伯夷叔齊のまうとまを  
 孔子も人もまき人とのまひ一うま  
 五をいふいんまこままあ討討の  
 後を討ちつへまをそれのまは韓ち  
 まふら一ちかしてまの子うまこまの  
 りてさう討めん討て周を政をとて殷  
 の諸侯を四十つありほりんを孟子

ふみまふまは四十勝の條皆さうふん  
あらん、周はあふまふ、清てあらん  
一、事知一、さする、義と、ふん、の、さ、四、を  
の、さ、さ、え、ハ、り、と、せ、と、う、し、と、さ、一、め、二、代、の  
て、四、を、と、せ、む、さ、う、い、活、る、と、い、ま、い、らん、う、ち、  
て、い、と、秘、れ、て、む、く、か、と、う、は、り、う、の、四、十  
と、せ、さ、う、の、間、も、周、を、と、う、ふ、ま、ま、ん、ま、  
か、と、ら、ま、ま、さ、一、せ、れ、て、か、ま、う、つ、と、う、

世中の秘れ、世の中のさうも、ふし、ま、を、見  
す、し、も、さ、さ、さ、ら、ん、と、ち、の、内、の、秘、れ、あ、り  
ま、し、ま、り、の、あ、り、さ、は、す、う、斗、の、る、も、  
さ、ま、ま、る、ま、は、さ、う、り、う、れ、り、後、に、  
世、い、ま、く、み、ま、れ、て、清、の、世、は、文、章、と、う、し、  
一、時、を、さ、さ、ふ、ん、の、さ、を、お、り、ひ、て、ま、  
く、清、ま、ら、ん、と、さ、さ、一、け、あ、る、人、も、  
さ、さ、ま、を、さ、さ、し、と、う、つ、う、み、ま、ら、ん、と、世、

ぬ人ごまかす(解)をいれてきたつひつゝとそれ  
のこまかすもの圓をいひすとあどとひ  
てつづつゝつゝつゝの意いをする圓よりさ  
てかゝ圓のまゝとあれ時又皆めつづつ  
きてきたつづつゝつゝはえひすとしていづつめ  
するもつづつとすゝすやゝ世こそつづつて  
つづつ語よゝあゝさるゝかゝるもいれれて活  
れゝ事もあるに儒てふ道ありとて天へのの

とつづつと(解)急りよあまゝるよゝつづつと  
つづつあゝさるゝつづつえおれとちいさく理りこ  
るおあれ人のまゝつづつる處よそはつづつ先  
物のつづつとする世のつづつ人の代つづつつづ  
つづつ責めさる理りよとて生てある天への  
のつづつつづつまよ似てとつづつる人あれつづつ  
つづつつづつつづつつづつつづつつづつつづつ  
えゝつづつつづつつづつつづつつづつつづつつづつ

瑤ううそ流うー極子うよふふそうそ  
於る川やう人をかゝ國へうてうせうう  
峯の子う旅屋よううーせうあううー<sup>列年</sup>  
の國々天地の人のまに流ううひてうちう  
ま瑤ううまう事のみまに流ううま  
そあううも流うつれまこととあま  
むー人のあふ<sup>さき</sup>うううひちを侍ま  
うーううあまのまうーうさうま

まをい儒の事九國う流うつうとこあう  
て天のの時ちまあう形れ出あてそれより  
あうれうの間もま<sup>てん</sup>を冠調あうか  
うきてうちつうう人のまみうひまうつ  
うちのあうまうまうも多うあり  
あう儒人の人のさうくあうのまう  
川の底もさうくあうう君をうあうむ  
ううてふまうううて天ううの



或人の佛の事と云ふ  
しと云ふ

んよすうつそれより後終よすうけあぐも  
すうきを鴻よすうけあぐも  
急を急なけれ<sup>唐</sup>れ事の時うてよりあに  
事と或人の佛の事を云ふと云ふ人の  
んのおちうにあれ道あれ<sup>唐</sup>君<sup>唐</sup>天<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>人  
のおちうなす<sup>唐</sup>さうえさう急<sup>唐</sup>のよてけり  
さう佛の事<sup>唐</sup>た<sup>唐</sup>事<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>さ<sup>唐</sup>し<sup>唐</sup>よ<sup>唐</sup>は<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>急  
て<sup>唐</sup>世<sup>唐</sup>の中<sup>唐</sup>よ<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>し<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>人の<sup>唐</sup>に

よりあつ<sup>唐</sup>道<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>出<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>如<sup>唐</sup>く<sup>唐</sup>こ<sup>唐</sup>も<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>つ  
神代<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>ち<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>ひ<sup>唐</sup>ち<sup>唐</sup>う<sup>唐</sup>て<sup>唐</sup>お<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>つ<sup>唐</sup>く<sup>唐</sup>あ  
つ<sup>唐</sup>け<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>道<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>さ<sup>唐</sup>り<sup>唐</sup>は<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>ま<sup>唐</sup>つ<sup>唐</sup>み<sup>唐</sup>と<sup>唐</sup>よ<sup>唐</sup>く  
さ<sup>唐</sup>う<sup>唐</sup>え<sup>唐</sup>ま<sup>唐</sup>さん<sup>唐</sup>お<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>く<sup>唐</sup>も<sup>唐</sup>く<sup>唐</sup>も<sup>唐</sup>儒<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>事<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>め  
酒<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>い<sup>唐</sup>は<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>も<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>は<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>さ<sup>唐</sup>ん<sup>唐</sup>だ<sup>唐</sup>り<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>り<sup>唐</sup>侍<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>を  
酒<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>さ<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>お<sup>唐</sup>の<sup>唐</sup>ん<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>も<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>は<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>お<sup>唐</sup>り<sup>唐</sup>て<sup>唐</sup>よ<sup>唐</sup>つ<sup>唐</sup>き  
て<sup>唐</sup>た<sup>唐</sup>う<sup>唐</sup>れ<sup>唐</sup>道<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>貴<sup>唐</sup>す<sup>唐</sup>天<sup>唐</sup>う<sup>唐</sup>下<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>さ<sup>唐</sup>き<sup>唐</sup>こ  
し<sup>唐</sup>お<sup>唐</sup>り<sup>唐</sup>よ<sup>唐</sup>ま<sup>唐</sup>す<sup>唐</sup>し<sup>唐</sup>き<sup>唐</sup>事<sup>唐</sup>を<sup>唐</sup>り<sup>唐</sup>ひ<sup>唐</sup>さ<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>あ<sup>唐</sup>る<sup>唐</sup>人

のんをふみのうそいをもあゝ急つ世の  
 君もあまふ似たれと、うれをゆく知とき  
 二世の中のんをもあゝんを知とき、流  
 びれんずいをもあゝのつゝあゝんきと孔子  
 人も詩をよそあゝて巻のふま出せしと  
 きまふまふんあゝん一んあゝ、隈るまきま  
 かなふいをもあゝるうかゝ、天地ととも  
 かなふいをもあゝのつゝあゝ事、よそあゝて

くあゝれ、あゝはのよそ一もあゝ知をあゝと  
 よゝあゝねと、あゝもすれ、あゝれよ、あゝす  
 人のん、のくせあゝ、知を捨る、あゝよ、あゝ  
 かなふいをもあゝまあゝあゝんを、あゝん  
 中ゝまふ、あゝれき、あゝのよそ、あゝひて、あゝ  
 ころあゝ、あゝの、あゝを、あゝる、あゝ、あゝの、事  
 かなふいをもあゝ、あゝの、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ  
 らもあゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ、あゝ

中々とんじろく人のおのついであるそが  
ふとらまのの文があらうらま  
いをさる事たふあまのよそは四  
おのついでほつておのすいおのもうもあま  
薬こそあつてまいさるはれそ  
ついでその事よんをついでおのり  
よりれあまのりまあまのこついで  
かりの事よいさまはくついで儒学生

蘇人のついで  
は四

中々政えらお急い四もさるあのみ  
ついでついでさる世こそまうりれ  
ついでついでついでついでついで  
鳥りあのおあつてついでついで  
さる事よんはついでついでついで  
ついでついでついでついでついで  
ついでついでついでついでついで  
ついでついでついでついでついで  
ついでついでついでついでついで

を好むもはづるにさる定めれ  
るのこゝろてかこふにさるのさる  
るるんさるをはる急る同姓めとす  
よかんとしひのこゝろをせこそりて  
えりあると馬ふいふあつあるふも又  
さるを徳とすりさるすりて又のち  
一のさるに母の同き筋をまことの足すと  
しはる母にりれにきり急てあつた

さるさるにこそよりれさるよに目幸る小  
えきふを儒のさるて世の徳みふれめ  
てはるさるあれる事よふりていふ  
同姓めとすかといふのこまうれる事と  
て代は位をんふりれれにさるに  
方の同よとす城の事いふ天をさる  
りある理めてはる急事をいふ馬いさる  
あつあつあるんよすをさるむる事と

又人ときを歌うまう  
とては

さよふもたき事人又鳥獸も同  
いとふ人のくそつれなめついでおを  
くさるめましまし人のくせこ四つめ  
四を多しすとさうそそよの通るき  
かー凡天地の間は生とびるよの皆虫か  
らずやそれ中よ人のいそ貴く人のい  
くぬとあまやう人じん万物のまとうひ  
ていと人を責めるをがのれ馬ふす人万

物の恐まよとまうきいとすれ天地  
日月のかりきまに鳥も獣も集虫も草も  
あまのいのとあきなきを人い  
形もよの人まふのいよとよにあれ  
あ人となまひよ智るおあてがの  
くしひゆるよりひの間はさぬくの  
きんの虫死てはよ世もつれ活れると  
とつる巧あましきをなれそりあ

ウヤ、一人二人お知とあらん時、  
そをきき、事しあ  
ひうちとぬて、終り用あり、事し、今鳥獣の  
目より、人こそ、さうれ、れ、何と、さうれ  
と、教へ、き、き、き、の、こ、さ、れ、人、の、こ、と、を、い、き、  
足す、より、別、れ、り、ん、ん、を、別、り、定、め、を、す、る  
を、天、地、よ、む、ら、る、あ、こ、こ、ま、よ、く、さ、る、事、に、終、り、  
れ、さ、り、と、こ、

又、そ、れ、れ、も、は、四、は、文、字、あ、り、こ、の、文、字  
を、用、ひ、こ、の、ま、り、り、を、れ、を、知、り、と、こ、  
ふ、先、こ、の、四、の、ま、り、り、あ、り、ま、り、世、の、流、  
を、い、く、も、文、字、こ、ま、り、の、事、を、い、く、の、  
ま、り、こ、の、文、字、こ、り、今、時、に、丹、を、さ、る、人、の  
用、を、字、の、を、奉、と、り、を、さ、る、れ、こ、の、こ、り、ハ

丹

天竺  
五十字

千と中んはつとくは花のつらも開教葉  
柑樹をの卯十まりの字あらていふ次又  
これ四木の名、伝の草木の名をとひて別  
よつらの字をて、卯よ用い急もそくく多の  
字を、それをつとし、人きく皆是中る、或  
は、或は、代は特して、その論はくは、  
も、蓋あく、く、く、く、く、く、く、く、く、く、  
りて、五十字、條卷の佛の語を書けり、よ、く、

五十字字イのよてせう、は五十字をすく、ちね、ち、今  
と、傳、あき、詞も、ち、れ、は、く、れ、は、く、を、や、  
字の、ち、五十字の、ち、名、天、地、の、ち、意、を、は、れ、  
、その、ゆ、よ、ち、ま、ま、の、ち、の、つ、の、事、は、  
て、は、り、ち、の、ち、ま、め、ら、四、も、も、い、く、女、字、は、  
そ、つ、ん、を、か、の、ち、の、字、を、ふ、と、つ、く、て、り、  
語、て、く、れ、は、ち、ほ、り、れ、て、今、む、く、の、詞、の、  
の、く、ち、の、詞、又、天、竺、の、五、十、字、は、四、く、

福と、ちの川の上と、又二十番の、  
なと、又四一、と、  
くち、つ、不、む、う、川、ふ、ま、く、ま、あ、と、  
も、ら、を、し、く、て、ま、あ、あ、ま、し、  
い、ち、れ、て、し、く、い、あ、  
ま、と、り、北、西、ま、  
方の、西、あ、あ、  
き、事、を、修、り、て、世、も、治、  
二十

二十  
二十

を、あ、り、ひ、こ、う、て、ま、  
ま、も、  
あ、ま、を、か、  
天、を、あ、あ、ま、て、  
ま、し、  
ま、を、こ、あ、ま、ま、  
の、中、の、事、物、の、理、  
理、く、ま、う、く、  
天、地、の、ち、の、川、の、み、の、ま、を



あけくおくのつゝ人のんを治めあぐさ  
まもくおそくくまひくこあもあつん  
をむすひしつゝおのちハ草は鳥ルカ  
おとこくろ川のをまかせあつまや  
天竺の又十まもはくまのめちちりな  
もせまなまはくまのめちちりな  
物の形をまもくちし風雅ある事あ  
ふみまはくまの上後まらまもくちり  
あけくおをまれまつけてまもくま  
あしつゝまはくまのめちちりな  
皆うせあまのつゝまを天よりけし  
も治めあぐさくまのめちちり

経  
の字の字の用ひるれあれといふ  
イ  
この字の字の用ひるれあれといふ

よ申ひーのさこまの<sup>誓</sup>後よとまのいふ  
ーまして申ひされとけ訓をのりま用  
ひてさよーうりさうーしかく語をさ  
ー字をさうことーされんまうせと字  
をこつひーを後よー語の主をあれとせ  
字は奴のつうれさー<sup>そみ</sup>主人かみー<sup>四</sup>  
の奴のみーとあれさうさうせう川さる  
あれーんまー

これー主人のさのん詞をあつらふ人  
ーの事とのさかーんさめい  
ーのさかーのん詞さーのさ  
りてーのん詞をさうそれをかして  
主人の世のさかをさくー主人の人の世の  
さかを知てよりかーさうのほーを神



人にかげいする事を知て答ふそじ  
そもくかこふもいと上川代よの  
とらあうそのちよ人の他うとこ  
もあれこおも仰うはるき事とかま  
よか人の心と他れりよのこふ事まき  
そうかこふ事人の他れうと  
よをうま天地の心うまりねその通  
用いはる世あうてよりてを子とよ

人の天地のまふくいとれ一事をそ天の  
の通よかあひはうれそをうらうこ  
もこいよあやうううこもしあや  
う事たよぶの人のこ一友こ  
初もあ事おととかくんあなき時  
よとこのむうき教あん用あ事  
て教へたとあやれこもくこそれ中  
よ人のこらまなくあれこあきもそ

を、くあき<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>もあ<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>り<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>  
れ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>に<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>に<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>一<sup>ら</sup>日<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>こ<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>む<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>  
つ<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>人<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>教<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>ふ<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>  
あ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>一<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>た<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>回<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>回<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>ふ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>教<sup>ら</sup>へ<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>り<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>回<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ら</sup>人<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>き<sup>ら</sup>回<sup>ら</sup>

ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>が<sup>ら</sup>一<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>教<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>天地<sup>ら</sup>  
の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>り<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>教<sup>ら</sup>へ<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>か<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>回<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>道<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>人<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>  
あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>く<sup>ら</sup>回<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>教<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>朝<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>夕<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>す<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>り<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>回<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>極<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>天地<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>す<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>日月<sup>ら</sup>之<sup>ら</sup>極<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>  
ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>て<sup>ら</sup>日月<sup>ら</sup>を<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>今<sup>ら</sup>も<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ら

と不一のよくはすめし日月もぢのふか  
もむうしうはてさうし世の中平し  
ふはれまをさ川この出てすめしきと  
あさかゝ四のふをまふしうおのしうら  
りてすめしきのおとちうまふまふくつう  
うおももおとちうけうらをかして神  
代の巻をもしうしそをかさんよぶし  
めまひていしうのふ初をまうう人よま

くあけなるまもをぞ見よか

或人この四のいしうに義禮智ふし  
りれいさるわはれもあしそしきま  
せもいとまふしうりう先し四よみ  
めしをまてそれよまふしうとま  
うしんん天う下よはまのあおのつうあ



人<sup>ら</sup>に<sup>て</sup>別<sup>べ</sup>に義禮ふと名つる<sup>る</sup>あり  
たりとせまき<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>を<sup>を</sup>只<sup>只</sup>さる<sup>る</sup>名<sup>名</sup>も  
あくて<sup>て</sup>天地の意のま<sup>ま</sup>ある<sup>る</sup>こそ<sup>そ</sup>す<sup>す</sup>れ<sup>れ</sup>  
さる<sup>る</sup>あり<sup>り</sup>は<sup>は</sup>四<sup>四</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>活<sup>活</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>  
め<sup>め</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>見<sup>見</sup>あれ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>事</sup>を<sup>を</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>  
ひ<sup>ひ</sup>せ<sup>せ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>こ<sup>こ</sup>人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>も<sup>も</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>  
と<sup>と</sup>悪<sup>悪</sup>い<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>う<sup>う</sup>き<sup>き</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>之<sup>之</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>  
か<sup>か</sup>一<sup>一</sup>國<sup>國</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>神<sup>神</sup>の<sup>の</sup>人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>ん<sup>ん</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>作<sup>作</sup>れ<sup>れ</sup>

る<sup>る</sup>物<sup>物</sup>あれ<sup>れ</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>ら<sup>ら</sup>知<sup>知</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>  
一<sup>一</sup>ワ<sup>ワ</sup>ウ<sup>ウ</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>一<sup>一</sup>國<sup>國</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>道<sup>道</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>つ<sup>つ</sup>ち<sup>ち</sup>  
の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>人<sup>人</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>  
ホ<sup>ホ</sup>ン<sup>ン</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>後<sup>後</sup>の<sup>の</sup>人<sup>人</sup>知<sup>知</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>  
は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>道<sup>道</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>  
り<sup>り</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>天<sup>天</sup>地<sup>地</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>事<sup>事</sup>  
あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>一<sup>一</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>道<sup>道</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>  
れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>天<sup>天</sup>地<sup>地</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>に



み百とせ<sup>千</sup>とせ<sup>千</sup>一<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>の<sup>千</sup>殺<sup>千</sup>も<sup>千</sup>一<sup>千</sup>を<sup>千</sup>  
事<sup>千</sup>し<sup>千</sup>と<sup>千</sup>せ<sup>千</sup>と<sup>千</sup>く<sup>千</sup>人<sup>千</sup>の<sup>千</sup>い<sup>千</sup>ひ<sup>千</sup>一<sup>千</sup>と<sup>千</sup>を<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>う<sup>千</sup>と<sup>千</sup>ふ<sup>千</sup>  
勢<sup>千</sup>い<sup>千</sup>よ<sup>千</sup>は<sup>千</sup>は<sup>千</sup>は<sup>千</sup>ん<sup>千</sup>天<sup>千</sup>地<sup>千</sup>の<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ふ<sup>千</sup>く<sup>千</sup>日<sup>千</sup>月<sup>千</sup>を<sup>千</sup>  
ち<sup>千</sup>一<sup>千</sup>つ<sup>千</sup>て<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>の<sup>千</sup>つ<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>川<sup>千</sup>皆<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>  
一<sup>千</sup>を<sup>千</sup>草<sup>千</sup>の<sup>千</sup>上<sup>千</sup>の<sup>千</sup>家<sup>千</sup>よ<sup>千</sup>と<sup>千</sup>ふ<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>の<sup>千</sup>家<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>  
あ<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>紫<sup>千</sup>よ<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>と<sup>千</sup>随<sup>千</sup>ひ<sup>千</sup>て<sup>千</sup>と<sup>千</sup>れ<sup>千</sup>形<sup>千</sup>と<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>れ<sup>千</sup>と<sup>千</sup>  
又<sup>千</sup>卒<sup>千</sup>く<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>上<sup>千</sup>よ<sup>千</sup>く<sup>千</sup>一<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>丸<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>よ<sup>千</sup>く<sup>千</sup>  
く<sup>千</sup>せ<sup>千</sup>く<sup>千</sup>必<sup>千</sup>り<sup>千</sup>と<sup>千</sup>の<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>よ<sup>千</sup>く<sup>千</sup>一<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>れ<sup>千</sup>と<sup>千</sup>

世<sup>千</sup>を<sup>千</sup>活<sup>千</sup>め<sup>千</sup>る<sup>千</sup>も<sup>千</sup>は<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>を<sup>千</sup>お<sup>千</sup>と<sup>千</sup>て<sup>千</sup>こ<sup>千</sup>ろ<sup>千</sup>  
活<sup>千</sup>め<sup>千</sup>る<sup>千</sup>も<sup>千</sup>は<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>を<sup>千</sup>お<sup>千</sup>と<sup>千</sup>て<sup>千</sup>こ<sup>千</sup>ろ<sup>千</sup>  
ら<sup>千</sup>急<sup>千</sup>と<sup>千</sup>か<sup>千</sup>の<sup>千</sup>世<sup>千</sup>を<sup>千</sup>て<sup>千</sup>知<sup>千</sup>一<sup>千</sup>か<sup>千</sup>く<sup>千</sup>て<sup>千</sup>め<sup>千</sup>と<sup>千</sup>ふ<sup>千</sup>  
一<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>天<sup>千</sup>つ<sup>千</sup>ち<sup>千</sup>の<sup>千</sup>人<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>れ<sup>千</sup>天<sup>千</sup>地<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>時<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>  
一<sup>千</sup>く<sup>千</sup>一<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>一<sup>千</sup>つ<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>一<sup>千</sup>せ<sup>千</sup>り<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>人<sup>千</sup>の<sup>千</sup>人<sup>千</sup>を<sup>千</sup>て<sup>千</sup>  
一<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>く<sup>千</sup>一<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>て<sup>千</sup>ま<sup>千</sup>ら<sup>千</sup>れ<sup>千</sup>と<sup>千</sup>あ<sup>千</sup>れ<sup>千</sup>と<sup>千</sup>

天地他元は、口角なりあはふ人の心は、  
 あらうたうよりれ、志はくかのうらよを  
 久て、志をくそふるのまを、よもた  
 らは、うまうくこそあれ、ふそあれ、  
 日も月も、一もまう、草はの上のま  
 のまらきを、めと、めと、おのつ、出あ  
 くら天地を、う、う、おのつ、あ、あ、  
 皆まらきを、心一、生、一、い、ら、め、の、も

う頭、志を、う、う、お、あ、う、ま、あ、き、こ、志  
 う、う、う、人のう、れ、あ、を、好、める、人、は、  
 世の中の、こと、う、も、ら、も、う、ホ、ン、い、あ、原、は、  
 赤、人の、心、は、ら、お、う、ま、く、て、理、う、あ、う、と  
 志、く、う、さ、う、ま、の、理、う、の、お、く、て、世、の、治  
 る、よ、う、と、み、う、ふ、治、れ、世、あ、き、う、く、と  
 う、う、天地の、丸、き、ふ、う、ひ、て、心、の、人、こ、う、ち、う  
 く、治、れ、こ、う、う、あ、れ、こ、ま、入、て、う、の、う、

あつちゅうまきくちもつうふつけて他人の  
うをいりあるを理りまると見まき急を  
あむむなりまきかはつれまきまきするま  
まといまよあはまきまきまきまきまきの  
つらふまきまきまきまきまきまきまき  
堪まきまきまきまきをまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまきまき  
つらまきまきまきまきまきまきまきまき  
つらまきまきまきまきまきまきまきまき

のいままきまきまきまきまきまきまきまき  
いふまきまきまきまきまきまきまきまき  
の人まきまきまきまきまきまきまきまき  
一人の語をまきまきは人もあつちまきま  
まきまきまきまきまきまきまきまきまき  
出づまきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまきまき  
知へまきまきまきまきまきまきまきまき

まうせしてき—<sup>ま</sup>ま—<sup>い</sup>ま—<sup>こ</sup>こ—<sup>せ</sup>せ—<sup>治</sup>治—<sup>ま</sup>ま  
れ<sup>ま</sup>の<sup>お</sup>の<sup>つ</sup>つ—<sup>に</sup>に<sup>ま</sup>ま<sup>す</sup>す<sup>れ</sup>れ—<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>の  
事<sup>が</sup>—<sup>と</sup>と<sup>お</sup>お<sup>れ</sup>れ<sup>と</sup>と<sup>人</sup>人<sup>の</sup>の<sup>好</sup>好<sup>い</sup>い<sup>か</sup>か—<sup>こ</sup>こ<sup>の</sup>の  
お<sup>り</sup>り<sup>れ</sup>れ—<sup>何</sup>何<sup>の</sup>の<sup>お</sup>お<sup>れ</sup>れ—<sup>あ</sup>あ<sup>る</sup>る<sup>ん</sup>ん<sup>お</sup>お<sup>ち</sup>ち<sup>う</sup>う<sup>あ</sup>あ<sup>と</sup>と<sup>ふ</sup>ふ  
ま<sup>あ</sup>ま<sup>き</sup>き<sup>事</sup>事<sup>こ</sup>こ<sup>一</sup>一<sup>人</sup>人<sup>お</sup>お<sup>ち</sup>ち<sup>れ</sup>れ—<sup>世</sup>世<sup>う</sup>う<sup>か</sup>か—<sup>る</sup>る<sup>か</sup>か  
く<sup>ほ</sup>ほ<sup>あ</sup>あ<sup>る</sup>る—<sup>よ</sup>よ<sup>う</sup>う—<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>の<sup>さ</sup>さ—<sup>て</sup>て<sup>天</sup>天<sup>く</sup>く<sup>下</sup>下—<sup>と</sup>と  
あ<sup>ら</sup>ら<sup>う</sup>う<sup>あ</sup>あ<sup>る</sup>る<sup>こ</sup>こ<sup>を</sup>を<sup>お</sup>お<sup>り</sup>り<sup>れ</sup>れ

う—<sup>人</sup>人<sup>の</sup>の<sup>威</sup>威<sup>を</sup>を—<sup>貴</sup>貴<sup>を</sup>を<sup>忘</sup>忘<sup>れ</sup>れ<sup>と</sup>と<sup>威</sup>威<sup>を</sup>を  
忘<sup>れ</sup>れ<sup>る</sup>る<sup>に</sup>に<sup>あ</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ま</sup>ま<sup>け</sup>け<sup>あ</sup>あ<sup>る</sup>る<sup>を</sup>を<sup>忘</sup>忘<sup>れ</sup>れ<sup>る</sup>る—<sup>す</sup>す—  
貴<sup>ま</sup>ま<sup>を</sup>を<sup>忘</sup>忘<sup>れ</sup>れ<sup>る</sup>る<sup>に</sup>に<sup>恥</sup>恥<sup>を</sup>を<sup>と</sup>と<sup>り</sup>り<sup>て</sup>て<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>の<sup>威</sup>威<sup>を</sup>を—<sup>い</sup>い  
は<sup>り</sup>り<sup>の</sup>の<sup>ふ</sup>ふ<sup>の</sup>の<sup>道</sup>道<sup>の</sup>の<sup>お</sup>お<sup>か</sup>か—<sup>是</sup>是<sup>を</sup>を<sup>お</sup>お<sup>り</sup>り<sup>れ</sup>れ<sup>を</sup>を  
し<sup>て</sup>て<sup>お</sup>お<sup>り</sup>り<sup>て</sup>て<sup>こ</sup>こ<sup>の</sup>の<sup>口</sup>口<sup>を</sup>を<sup>き</sup>き<sup>つ</sup>つ—<sup>四</sup>四<sup>國</sup>國<sup>は</sup>は  
道<sup>も</sup>も<sup>て</sup>て<sup>ま</sup>ま<sup>を</sup>を<sup>さ</sup>さ<sup>し</sup>し<sup>よ</sup>よ<sup>又</sup>又<sup>あ</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ま</sup>ま<sup>け</sup>け<sup>あ</sup>あ<sup>る</sup>る<sup>を</sup>を  
而<sup>次</sup>次<sup>の</sup>の<sup>よ</sup>よ<sup>き</sup>き<sup>人</sup>人<sup>に</sup>に<sup>上</sup>上<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>あ<sup>ら</sup>ら<sup>ま</sup>ま<sup>け</sup>け<sup>あ</sup>あ<sup>る</sup>る<sup>を</sup>を<sup>見</sup>見

ていふしけあき馬いをおこしおのりし  
もそれとあつひしてかたがはあつ急事のお  
うれい好まがし好まがられんらひしんら  
ひりれん平らう之責を示ひのりあき事  
先<sup>立</sup>教を胎をすしつてま女元をうさう官  
人あをまといすりを見てまこと不貴  
してふらあむ人責きをあめふ  
とも事もあるしそれの中は天地のん

れをますしをうてかくてあんこ  
たあれと百とせいら命つあまき  
行らんかと馬ふのまくあつてらん  
謀をあひめ又そのまひ及急ま  
におひまのひてあまのぬらぬみ  
いさうあらんそやわれをあれいあ  
あよりみされよがしつそまのうてさ  
く得んと馬ふらがしんら

りのこゝろはほろこゝろこゝろの天比の  
一のまゝくゝいふりありあゝあゝか  
板のやまづつちのうきちのあまのこゝろも  
葛まきのたちたれしすまゝも  
ら、馬糸をうめてうゝまゝな  
いふちかくうつちえん人のこゝろこゝろ  
しきふつちまゝをこのむあゝあゝ  
こゝろのまゝをうゝまゝせしこゝろより

こゝろ教衣膝おとのまゝぬて上のまゝ  
貴まよとてんちあまよ女のこゝろあ  
まゝこゝろこゝろ子ぬて上の位をまのま  
まつとちよとれまれい上のまのま  
貴くてちんこゝろちんちんまのまの  
上の如くあゝてこゝろ人のこゝろ名をま  
上をまのまのまゝ上ゝまゝもま  
かくあゝあゝはちゝまれまゝまゝま

ことみるふちのちま匠も又後の匠もあ  
こせられりてその系の侍りのこころれう  
れ道をもはれてひよの國もあひいふあ  
まちよりなれり事て或人同さうはい  
ましよ皆あき人あき世にこころれ  
さうくとこふこの同さまさうあかきふ  
まを考る急友の元人のあかりれいふ  
川あおーあおられいふふくくま事

かーさてあかきふつきていふくー日あま  
事をかー世をもういんとあふ人もま  
あれとあかきふよりあま事あれいふれ  
あーいられあられいふまちまこころひー  
くまうて大なるれかーあかき時よ  
人むらあす上つ代の事をい何もこ  
かおーもつういひひくあて天く  
まあま事を考るせいのちよあうい

あれとく後世とありては、もあふ  
くす、とよき不系、教へをたすつ  
りのと、さそが、もあまあひる人、人を  
教回をちむけいさいとやんをよよ  
かれ、うぢとす、孔子の教す、用ひる  
世、か、こおもあきを、うふめてあて  
いく、何のさ、う、人、教へは、さ、ふ  
もの、ち、り、う、天地の、ち、ち、を、さ、さ、さ、

急、あ、て、教、へ、さ、と、犬、も、鳥、も、その、ん、う、く  
ま、い、必、四、時、の、行、あ、う、う、う、如、い、

因、姓、を、め、う、う、と、よ、を、さ、し、の、を、思、ひ、て、  
は、酒、よ、い、足、す、あ、通、う、る、と、し、ひ、て、さ、う、け  
りの、よ、因、う、と、う、う、天、の、ん、よ、い、づ、人、を、鳥  
け、りの、ホ、と、あ、う、と、う、う、や、さ、う、い、ら、る、



りの皆同一事と云々制を云々  
人あれと云の制も四子より地よりして  
と云々事々草は鳥けりのと云々  
如し然れと云の四のよち一も子云々  
て出たる制天地の父母の教へば四の子  
しと云々を云々して是又を云々  
事と云々よりてち一人の情あかりれと云  
かゝる事々はあくて是れ又云々の事

い多しと云々くわの通せしと云  
きつと云々のなを云々是れ婦人  
逢て人に出たる事々云々人  
よと云々の制云々  
そしと云々の事々云々  
と云々の事々云々の事々云々  
は事々云々の事々云々の事々云々  
は事々云々の事々云々の事々云々

一夜制をうつる。必天く下の人の後の世まで  
さるるものとおもふ。急あるらざるその  
同姓をうさ急をりしめるがとあつる。君  
をいせんか。君を志し。父をこらす  
制にあられて同姓めう急をてうとあつ  
つ。いある急時うやすつ。まの侍  
ま。こそよりれ。上げりま。下。付けり。う  
人の子如く。ちうも。う。あ。に。活。ま。る。代。の。

百とせあ。ん。ぶ。い。が。の。こ。う。に。ま。も。千  
年。活。れ。る。こ。そ。よ。り。れ。い。天。比。の。久。し。ま。よ。む  
う。て。い。千。年。も。百。年。も。一。ま。ま。き。も。あ。る  
ま。い。か。く。よ。ま。不。と。ま。あ。る。て。こ。そ。よ。り。れ。  
る。あ。る。理。う。に。ま。あ。し。

佛の道る事の時うてより。う。あ。ん。と。と。

ろくせー事のまーさを、ふもたし、  
のまことの佛のん、さはそ、  
をひよりのおの、欲はひくれて、佛をう  
てかきうもあき、  
もつて人よめ、つて者事は、  
生るゝの、  
はりのよ、  
をふを、人多くする事と、  
をふを、人多くする事と、

ちま、世のりの、  
の母も、  
もしたと、  
せし、  
より先世、  
さして、  
もころ、  
かー、

ひとつ、今が、多く、こゝろ、せ、い、大名と  
あゝ、急、又、その、上、よ、お、か、く、こゝろ、せ、い、一、系  
急、一、と、あ、く、急、ま、そ、を、す、入、て、傷、も、か  
く、こゝろ、せ、い、こゝろ、と、や、一、を、代、り、兼、え、ち  
つ、是、よ、い、ら、む、ら、い、の、ま、よ、人、を、殺、し、む  
一、を、こゝろ、せ、い、一、事、な、る、を、知、一、一、ま、人  
て、む、ら、い、と、い、ひ、あ、る、一、事、と、い、ふ、あ、と、い、狐  
狸、の、ま、い、も、て、元、天、の、中、の、り、の、よ、が、の、う、一、

お、る、事、あ、れ、と、皆、足、え、る、事、あ、る、を、た、  
き、つ、ま、く、急、ま、の、一、人、を、一、も、た、か、く、い、ま、  
を、い、ら、る、こ、り、今、その、ま、よ、人、ま、く、こゝろ  
一、ま、れ、一、う、ま、こ、よ、む、ら、い、中、に、人、と、思、ふ、人  
あ、一、急、ま、<sup>狐</sup>一、を、知、て、その、む、ら、い、の、ま、を  
あ、り、一、と、あ、く、さ、ま、と、す、一、一、う、人、ま、く  
こゝろ、せ、い、一、先祖、より、い、ま、よ、い、る、ま、て、の、ほ、ま  
れ、一、一、け、後、も、さ、る、よ、あ、一、一、い、ま、

多くこゝろして之をまゝ名をあらんと  
爲し世の中の人をむじの事をかゝひつ  
くれつこまて百人を若くも一十人  
を川に流せしむあつとつこまきづくよき  
事はかゝひふりふり急きもえりり  
しれふかく流してさるともなれん  
をい故をこゝろすゝ急事よとつれ  
よあつてふまゝその事よむじこまを急

急事人あつあつをいそくにさるる人い  
うあつんとあつとつこまき急事よ  
多きを推してあつとつ急事をあせ  
は佛子願ふも急事よその急事  
事出たつとつとつ急事よその急事  
つんとすつとつとつ急事よその急事  
後終つとつとつ急事よその急事  
急のむらひとつとつ急事よその急事

小ききよまうせんや、活ねる世ももろあま  
 急す人んをて人こふはりのあれと、それ  
 づうそこつれ急あもあぐて一馬よりてあ  
 川ひふるをこらはに、さすきん、ひえさう  
 思いたうてこらせも、く井僧のこもく、か  
 るこふあをこ、又元の人すきもあ、まも  
 む、この事の事あ、まもその先のあれす  
 幸あまよ久、このりの、それよあ、こもて

そあ、こそ人よ、ち船のま、そのむ、うま  
 一、あ船のま、それふら、の、まもすれんて  
 子あ、り、う、ま、れ、又、う、ま、船、よ、く、く  
 う、こ、ま、う、ま、ま、ま、ま、あ、ま、ま、ま、ま、ま  
 とあ船のま、あ、ま、それ、ま、く、ま、ま、あ、ま、ま  
 かうと、こ、ま、ま、ま、ま、ま、見、ま、ま、ま、ま、ま  
 を、ま、ま、ま、ま、ま、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま  
 子あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

むらひとかりひーを、忘るゝあはれさるる  
なり。

○このふのうけまをまゝしして世の流るる  
事よつけて或人ふ、今なる軍の法を  
まゝにいそいそあれし、おつれえ師  
とありあんと、又つそよの道をゆるるもの

かりう、おつれ世にあらば、一うをふせき  
いぢりつぎきよのまをもつれむいこゑし  
てんとくれ、世の中の流るのこゑあしと  
おつれいそ、忘るゝに、こゝ人の心を忘るゝよ  
く、いそいれん、けりこゝま、大平よせれて  
させる事も、けきを平ふうめ、さる時、か  
くてのこゝま、いそいそ、いそいそ、あはれく、のこ  
をも、あはれ、時あはれ、はよき、いそいそ、あはれ、

今いふとかりひてあるきりきを  
して命を終るのうちに馬を奉あれ  
と時のいきりひきあふひて互ひの  
歩道をまよふ人のあつたて世の  
よがりと馬もなまひのあつた  
人三人のうちにせんも又世の中  
あつたてをうむるせんも  
てをかりてきり人のんころ

りの上よりけき威あれなるあ  
ぬとあつたふのてあつたけ  
道をまよひの子孫つて一夜の  
たつたきりもまよふる人  
りてあつたきり事をよま  
人こりまのあつた中よ獨り  
もあれとあつたきりてこり  
のころころころあつたか



ことすむいふれよこもんあきいれよそりのを  
 事イのあらん時よ和をかさんこもんこもき  
 せしものたのもしきと世にいつまても  
 かくてあんとたき馬ふよや末あううん  
 事なり時のふよりあふをのしどりと記  
 ふいそのまの覺りあるて多き淀着の中  
 ふいさぬくあるこそよられものなうけま  
 をむきしとてうりこぶうれをるうけ

きよのながうせは又あうりれてうきほひ  
 を物をもおられしむきようおあき事を  
 考ふ二人のうきふむあふようきてい  
 けまこれもさるかすれよのしなるよめいワ  
 うかひさぬよきれいふりきよめこそま  
 事をも考ふてあうあうきよりてて天  
 う下の人のかりてをあううききれんも  
 考うあうと考ふよやんのうけをう一人よふ



すれども人の志うかいていふかひはしり今  
馬を了きんよ人の志うかひすいふと馬ふ  
んがのつうつういふは志うふ事を  
せんとするよいふしうかひれうすし志  
うんちあつたまあううて志あんすうと  
かりひてうけえれせんうあうて志うふ  
もかとりいんをまといんやつ子よのん  
て解うようつう貴うきを志めさひ下

とあやうき志うしとて事の如くあもん  
よい主と子名のあう上よかひけなまん  
いあ子よ志ういさる時い國のあうり  
うし命をうすまはあ言こをもうう見志不  
とふあめいんいりのうあうてい事の  
情もふういあう急めめて富貴とあう  
とひいてい入候すい人うななつてはう  
平の道もまのふよ志ういしてこのうら

此居よりして、淀着をなす川ありれむ  
ホあり急なれ、こゝよこ、こゝあり、こゝす  
と、こゝの、こゝあきまきに、理、と、こゝ  
こゝ人の、こゝの、川、く、つ、れて、教、の、こゝは、  
こゝあり、こゝす、こゝ淀着を、こゝす、こゝ淀着、  
し、け、あ、し、と、あ、も、こゝ、こゝい、百人、ある、人、よ、と  
す、と、も、こゝの、い、お、り、よ、事、た、つ、下、よ、ゆ、か、え、ん  
ゆ、か、え、あ、は、馬、を、出、さ、す、時、こゝま、ま、こゝす、し、  
こゝ

人、集、り、急、し、こゝの、時、に、集、ま、れ、る、人、は  
も、その、人、を、と、と、し、て、行、あ、こゝ、一、万、騎、よ、と  
き、し、て、十、万、を、や、あ、す、こゝ、こゝ、り、て、よ、あ、し、き、人  
こゝ、兵、を、ま、よ、よ、こゝ、あ、し、と、こゝ、こゝ、い、ち、  
こゝ、こゝ、こゝ、時、の、房、と、の、こゝ、あ、も、こゝ、急、な、れ、淀着  
を、あ、り、ま、い、ん、を、用、い、ま、し、て、家、も、と、よ、  
さ、く、え、ま、し、こゝ、こゝ、よ、ま、こゝ、よ、の、こゝ、の、道、  
あ、り、れ、こゝ、あ、か、こゝ、ん、よ、こゝ、の、政、を、あ、ら、そ、

ふせんやそのつぎはさくらせんや  
手をこま<sup>こま</sup>急<sup>急</sup>きて家を治むつぎのて天  
うやを治じ<sup>以下一印元</sup>まりの<sup>後</sup>の人その司とあ  
れ<sup>貴</sup>きを志<sup>貴</sup>さん<sup>威</sup>を<sup>威</sup>さん<sup>威</sup>と  
を威と<sup>威</sup>ふ<sup>威</sup>りの<sup>威</sup>云<sup>威</sup>威<sup>威</sup>あり<sup>威</sup>か<sup>威</sup>よ<sup>威</sup>は<sup>威</sup>は<sup>威</sup>は<sup>威</sup>  
貴き<sup>威</sup>存<sup>威</sup>ふ<sup>威</sup>く<sup>威</sup>ら<sup>威</sup>う<sup>威</sup>よ<sup>威</sup>の<sup>威</sup>司<sup>威</sup>  
下を志<sup>威</sup>して<sup>威</sup>急<sup>威</sup>事を<sup>威</sup>教<sup>威</sup>師<sup>威</sup>  
ゆ<sup>威</sup>も<sup>威</sup>時<sup>威</sup>下<sup>威</sup>ある<sup>威</sup>人の<sup>威</sup>威<sup>威</sup>也<sup>威</sup>さ<sup>威</sup>る<sup>威</sup>あ<sup>威</sup>ま<sup>威</sup>りの

て又司とありて<sup>下</sup>の人<sup>皆</sup>さ<sup>る</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>る</sup>りの  
と急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>急<sup>る</sup>ある<sup>る</sup>ん<sup>て</sup>下<sup>を</sup>下<sup>を</sup>も<sup>も</sup>人<sup>こ</sup>さ<sup>の</sup>  
こ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>る</sup>りの<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>は<sup>り</sup>その<sup>中</sup>は<sup>下</sup>  
下<sup>を</sup>して<sup>あ</sup>は<sup>さ</sup>け<sup>の</sup>道<sup>をも</sup>も<sup>も</sup>の<sup>ん</sup>をも<sup>も</sup>  
急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>る</sup>く<sup>さ</sup>る<sup>を</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>  
き<sup>う</sup>せ<sup>よ</sup>う<sup>の</sup>人<sup>の</sup>ん<sup>を</sup>つ<sup>く</sup>さ<sup>せ</sup>て<sup>後</sup>こ<sup>も</sup>子<sup>の</sup>  
の<sup>こ</sup>ら<sup>も</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>上<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>下<sup>の</sup>と<sup>ん</sup>ひ  
急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>急<sup>る</sup>る<sup>る</sup>

そのついでに板かき司を名にむくあといふ  
ういさうちのりこの脚をすまほしとい  
ふれりい中あきりのいひあはしむあはしむ  
らんすいしむいあまれいこのふゆい  
い川まじし淋侍いいふ坊をあつる司  
あつてそれの中子久いこの事いふれ  
瑞の枝直い人あつそれいあま先い  
あつんいふいこの事をすてこといふい

すいさういの人をうたはけてりてこの  
訴のふをすいひいさいあま書人  
いあまあついさいあまあついあま  
あつちいあまあつんを教へていさいあ  
んをあつさいああまあついあまあ  
あつちいあ右のいこの事をあついあま  
あけていさういさういあつる事を  
あつちいあまあついあまあつる人の

悟あれいざきあし 唯ふふかりいびて  
さうあきいあしと知てあまねくと子  
こそを司の権威こそつ時いづれまも  
たもきよめるとまよふてよあ川子  
ふよんまきとまよもつての威い  
あき事を知し

○或人そ古今席あまあれたるまのつぎほし  
いふ事て、ね又んあしとこがふれ席  
まうけた天地をうこし、鬼神をあそれ  
とおもいせ、雷女の中をうけ、うけまも  
のふのふをもあきさしとつて、あきく  
あしあきまをうけくまうけてつてを  
ねい、まもさる事て、それう人まもてを  
いふ、うさうまふらん人のん、私あ





れもむくどりはんを引ひあけを今  
たじうくまうれとむくのうひひ  
ん世まごちんくくはんをわん  
おのつう理うのうをあひ事つ子  
りもせいを先つう位まうまほひあ  
んんごちりの人を皆あふして  
をあひくく位まわくく  
しきともさの志くくくひ

のうをきくたけくをく人ま  
人をくあくせんくくくく  
りまうくまうまうまうま  
かんくそのんをあくくくま  
ほひ物もあれがのくくく  
わくくたうきくくくくく  
人のくくくくくくくく  
ひ出せり後まそれをおひくく

くわととるのこし

或るよのふれととるあれとたいとよの世  
の事として今の世のよあうよたよか  
づ人のふえまよしまよあうあれいそ  
むしホクをよをめんやあういよの時の  
まよくよあういよあひくいよの

事今いよあき事こといよふまことふあう  
いよふれもかりん九軍のたうをふまも四  
家を治るをふふも先よのめをよのふ  
る事をいよいよよよの君のふよいよて  
いよの人もいよのほをよの人のやよ  
まよあうよ君あう人のまれえいよいよ  
ふれもくよいよいよとよ人とまよよよま  
れていよいよのらあまよまよあういよ

てそれらにこそを治すべし。そのせり  
よまいしをこのて世のあかしく人をむほ  
ほ人といふん時、十と世二十と世をよまひ  
してあかき世、そのあかき人といふ大  
うまといえあかきとかり人と上の一人  
のんまて世、いふう川るて命をうけつるい  
らきあしその大將の人よりてつくるの  
人も命をうまき地はあかき

世の中は

世中よそれらをかめはく、いふもやま  
も同じとれ、凡の人こそあかき孔子  
のんまて  
人もあかきえのうのまきまはつらあ  
りてあかきとあかきあかきあかき  
あかきあかきあかきあかきあかき  
あかきあかきあかきあかきあかき  
あかきあかきあかきあかきあかき

さゝ及び子にうれりうれんは是れ若れそ  
 の幸病のやくをを忘のくんある人のよ  
 きうふ用ひるはくはあまきうふ用ひる  
 世人のあひいてくるんはくはくはくはく  
 きをうらわくわくわくわくわくわくわくわく  
 うれとくもも又すくきのはあれは  
 うきのみやめをうれもあはくはくはく  
 らあのかくはくはくはくはくはくはくはく

につれりこもあはれは世のうれとあ  
 りはくはくはくはくはくはくはくはく  
 かつりくはくはくはくはくはくはくはく  
 りして世のうれとくはあはくはくはくはく  
 ともまをれは又君のふをそこあはくはく  
 うてらまあはくはくはくはくはくはく

かみきい図

